

# 「忘れないでさくらこちゃん」プロジェクト

実施者：同絵本プロジェクト

## ◎目的

原爆被害と被爆者の思いを子どもたちに伝える絵本を制作・出版する。

## ◎こんな人に届けたい

小学生を中心とした子どもたち。

しかし、新聞報道により、教員、孫や知人に贈りたいと一般市民からも広く購入された。

## ◎実績

初版部数500冊

(うち160冊を長崎市内の小中学校、図書館などに提供。教育委員会教育長、メディア等へも提供)

## ◎事業の内容

爆心地で犠牲になった子どもについて、その発掘作業に関わった一人の被爆者が長年、その子を想像し、追悼してきた物語を『忘れないで 長崎原爆とさくらこちゃん』という絵本にし、出版した。自身も高齢化し、人生の残り時間を考えたとき、未来の子どもたちに爆心地の被害や自らの反核・平和の思いを伝えようと絵本制作を思い付いたのがきっかけ。作画は、同じ被爆者で「子どもたちに平和な未来を」と漫画を描き続けてきた西山進氏に依頼し、知り合いの記者や編集者、印刷業者などとともに制作を進め、「読み手」側の読みや



すさ(装丁も含め)などにも配慮しながら完成させた。

出版に際して事前の新聞取材のほか、記者会見や市長報告を積極的に行ったことで、長崎県内外で報道され、九州各地、関西・関東からの注文につながった。絵本は、長崎市的好文堂書店や原爆資料館の売店でも販売され、報道によって認知度が上がったため、好調な売れ行きを見せた。



あわせて、長崎市内の小中学校、長崎市内の図書館・図書室に160冊提供したことで、子どもたちへの周知にもつながった。

## ◎事業の成果等

- ・作者の知人のほか、新聞報道によって県内外の教員、平和活動に取り組む人、戦争体験者、子どもたちからの注文があり、長崎市への提供分とあわせ初版500部がほぼなくなった。

- ・購入した小学校教員が2年生のクラスで「読み聞かせ」教材に使用。「8月9日にこんなにもたくさんの方がなくなったなんてこの本を読むまで知りませんでした」「これからせんそうをなくすためにはどうしたらいいかなどを考えます」等の感想が届いた。



- ・新聞報道を読んだ県外の子どもが

自ら「この本を読みたい」と母親に伝え、購入。担任の先生に本の感想を伝え、原爆や長崎、戦争についての関心を高めたとの感謝の手紙が寄せられた。

- ・作者の実姉が居住地の埼玉県上尾市で教育委員会に本の完成を報告し、被爆地でない地域でも新聞に取り上げられた。
  - ・新聞、テレビで広く、絵本制作の取り組みが報じられた。
- 結果として、原爆や反核・反戦を願う作者の思いを子どもたち等、次の世代に広く伝えることができた。



## ◎今後の取組み

- ・絵本の販売を進め、より多くの人たちに届ける。
- ・報道機関等の取材に積極的に応じ、さらには取り組みを広く紹介すること。

